

安全装置付きガス器具をご使用ください

Siセンサーコンロ

Siセンサーコンロは、すべての口に次の安全機能を搭載したコンロです。



●立消え安全装置

煮こぼれや風で火が消えると、安全装置が働き、自動的にガスを遮断します。

●過熱防止装置

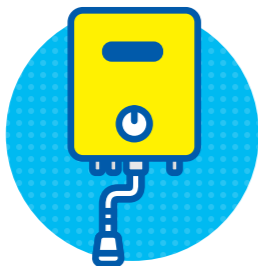
鍋底の温度が約250度を超えると、自動的に消火し、油の発火を防止します。



不完全燃焼防止装置付湯沸器

不完全燃焼発生時に、自動的に消火します。

※不完全燃焼防止装置の付いていない小型湯沸器は、不完全燃焼による一酸化炭素(CO)中毒事故が発生する可能性がありますので早めに交換してください。
※点火時やご使用中に火が消える場合は、安全装置が作動している可能性がありますので、再点火は行わないで、直ちに使用を中止し、ガス機器の購入先やLPガス販売店または保安機関(緊急時の連絡先)にご連絡ください。



ヒューズガス栓

ゴム管が外れるなどの原因により、一度にガスが大量に流れるなどの異常が起きると、自動的にガスを止めます。



一酸化炭素(CO)警報器

不完全燃焼などで発生した一酸化炭素(CO)を感知して、ブザーや音声でお知らせします。

※一酸化炭素中毒は、場合によっては死亡する可能性もあり大変危険です。警報が鳴った場合は、直ちにガスの使用を中止し、窓を開けるなど換気をしてください。
※一酸化炭素は、空気より軽いためにたまりやすくなります。換気が終わるまでは、安眠に高い場所に立たないようにしてください。



マイコンメータ

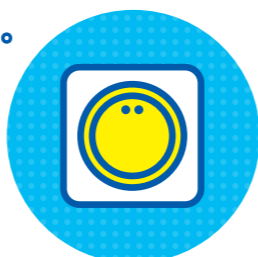
ガス漏れなどガスの流れに異常がある場合や、火を消し忘れた場合、ガスの使用中に大きな地震が起きた場合はマイコンメータに内蔵された遮断弁が働き、ガスを遮断します。



ガス漏れ警報器

ガス漏れを素早く感知して、ブザーや音声で知らせます。

- ① 電源プラグは常時コンセントに差し込みましょう。
- ② 適切な位置(床面から30cm以下の高さ)に警報器を設置しましょう。
- ③ 警報器の周りに物を置かないようにしましょう。
- ④ 警報器の交換期限は5年です。交換期限を超えていないか確認し、期限が過ぎる前にLPガス販売店に連絡しましょう。



こんな場合はLPガス販売店にご連絡ください！

- ガス設備の工事や新しくガス器具を取り付ける場合、取り外す場合。
- 新築・改築・転居などで、新しくLPガスを使う場合、または止める場合。
- ガス以外の工事(リフォームなど)を行う場合。
- ストーブなどの季節器具で、取り付け・取り外しが困難な場合。
- 長期間ご不在になる場合。
- 固定されたガス器具の変更や修理が必要な場合。

※配管・風呂がま・湯沸器・煙突などにかかる工事を行う場合は、法律上の資格が必要です。※風呂がまや湯沸器の中には給気口や排気設備が必要な機種があります。

お問い合わせ 手持ちの携帯電話等でQRコードを読み取りください。

ENEOS グローブエナジー株式会社



LPガスをお使いになるお客様へ



LPガスってどんなガス？

①空気よりも重い

LPガスは空気よりも重く、漏れると低いところや物陰にたまりやすくなります。もしガスが漏れたら、特に下の方の風通しを良くしてガスを屋外に追い出しましょう。

②ニオイをつけている

LPガスそのものは無色無臭ですが、漏れた場合に分かるように腐臭をつけてあります。

③燃焼にはたくさんの空気が必要

LPガスが燃焼するためにはたくさんの空気(酸素)が必要です。室内でガスを使用する場合は、十分に換気をしてください。換気が不十分な場合は、不完全燃焼を起こし一酸化炭素(CO)が発生しますので十分注意してください。

④液化した状態で容器(ボンベ)に入っている

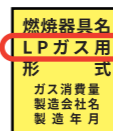
LPガスは圧力をかけて液化した状態でLPガス容器(ボンベ)に入っています。

⑤クリーンなガス

LPガスそのものには人体に有害な一酸化炭素(CO)は入っていません。

LPガスの使用について

- LPガス専用の器具をご使用ください。
※都市ガス用器具は使用できません。
- ガス器具の取扱説明書をよく読んでから正しくご使用ください。
- ガス器具の保証書は大切に保管してください。



ガス器具のお手入れ

ガスコンロなどの目づまりは不完全燃焼の原因となります。器具ブラシなどでこまめに掃除してください。風呂がま、瞬間湯沸器などのガス器具のお手入れで、ネジなどを取り外す必要がある場合は、ご自身でお手入れせずに、必ずLPガス販売店へご連絡ください。



ゴム管はときどき点検し、早めに交換してください。

ゴム管からガスが漏れているかの点検は、石鹸水をゴム管に塗ってください。泡が出たらすぐに新しいゴム管に取り換えてください。



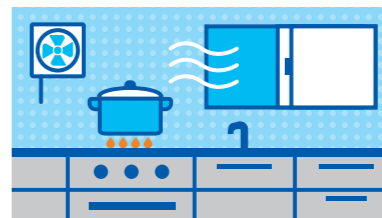
ゴム管の使用について

- ゴム管は、ガス栓の赤い線のところまで差し込み、ホースバンドでしっかり止めましょう。
- 三つ又は危険です。絶対に使用しないでください。
※ガス栓に適合するLPガス用ゴム管、または専用ホースをご使用ください。



ガス器具をご使用の際は必ず換気を!!

- 室内でガス器具をご使用の際は、換気扇を回したり、ときどき窓を開けて十分に換気をしてください。
- 小型燃焼器具でも長時間は使用しないでください。
- 風呂がま及び大型湯沸器の設置場所には、換気口及び排気設備を設けてください。



※ガスの燃焼には、たくさんの空気が必要とします。換気が十分に行われないと、酸素不足や室内に排ガスが充満して不完全燃焼を起こし、有害な一酸化炭素(CO)が発生する恐れがあるため、大変危険です。

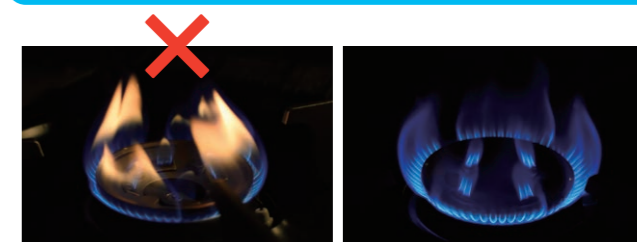
※点火時やご使用中に火が消える場合は、安全装置が作動している可能性がありますので、再点火は行わないで、直ちに使用を中止し、ガス機器の購入先やLPガス販売店または保安機関(緊急時の連絡先)にご連絡ください。

点火・消火は必ず目で確認を

- ガス器具の近くに燃えやすいものを置かないでください。
- 立消えに注意!火を使っている間はその場を離れないでください。
- ガス栓は全開で使用してください。
- カバーやキャップが取り付けられた未使用のガス栓には、手を触れないでください。
- マッチ等で点火する場合は、着火後に器具のガス栓を開いてください。
- 就寝時や外出する場合は器具栓、ガス栓を閉めてください。



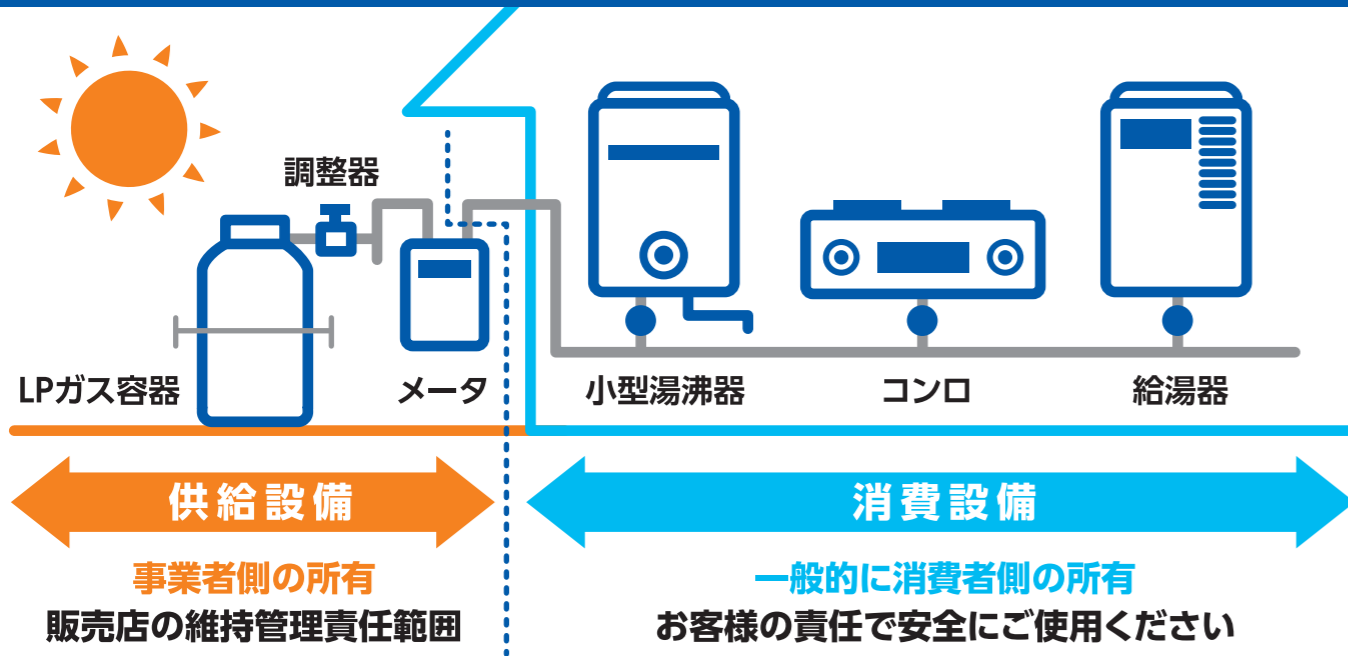
いつも青い炎でお使いください



不完全燃焼(酸素不足)

完全燃焼

消費設備はお客様の責任で安全にお使いください



『消費設備』とは

メータが付いている場合はメータの出口から燃焼器具までです。
メータが付いていない場合は容器から燃焼器具までです。
法令に基づき、定期的にお客様のすべての設備について調査・点検させていただきます。

小型容器の取り扱いについて

- 容器が倒れないよう、平らな場所に置いてください。
- 容器を横に寝かせて使用しないでください。
- 直射日光や火気を避けてご使用ください。
- 使用後は、必ず容器バルブを閉めてください。
- 容器は、火の気のない風通しの良い屋外に保管してください。
- 不要になった容器は必ずLPガス販売店に返却してください。

※LPガスが残っている容器を捨てると法律により罰せられます。



自動通報システム設置のお客さまについて

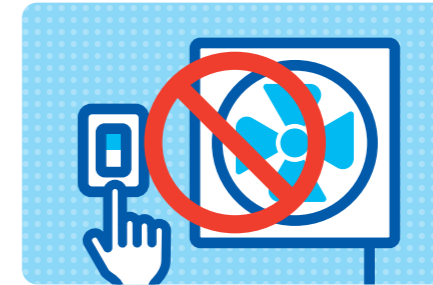
お客さまのLPガスの設備が安全に使用されているか
システムにより24時間365日休みなく見守ります。

※この内容は液化石油ガス法第27条第1項3号(施行規則第27条、第38条の2)に基づきご家庭にお届けするものです。ガスをお使いになる皆様でご覧の上、保管してください。
※電子メール、弊社ホームページの閲覧等(液化石油ガス法施行規則第38条の3)による周知をご要望される場合は、事前にお客さまによる承諾が必要となります。

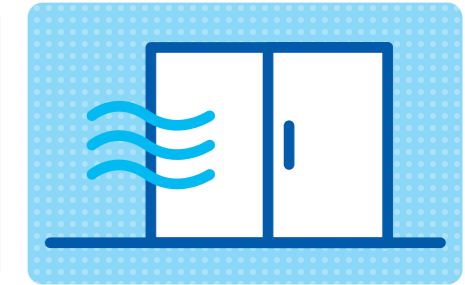
もしもガスが漏れたら



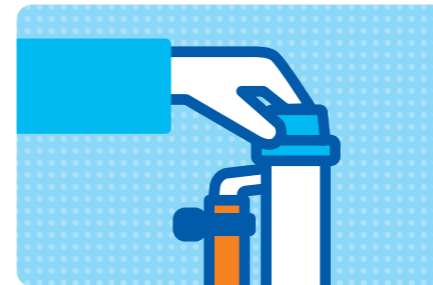
コンロやタバコなど使用中の火は
すべて消してください。



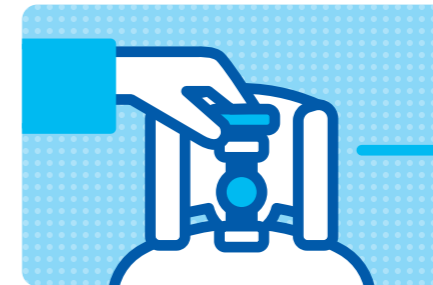
換気扇・電灯などの
スイッチに触れないでください。
火花がでるおそれがあります。



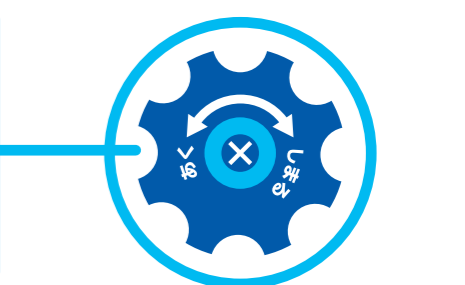
戸や窓を大きく開けて
換気してください。
※LPガスは空気より重く、低いところにたまりやす。
特に下の方の風通しを良くしてください。



すべてのガス栓、器具栓を
閉めてください。



容器バルブも閉めてください。
災害時、容器バルブを閉めることは、
二次災害の防止に役立ちます。



容器バルブの閉め方
容器バルブを閉める場合は、
時計の針の動きと同じ右回しです。

もしも災害が起きたら

火災の場合



容器バルブを閉め、消防署員
または消火にあたる人に容器の
位置を知らせ、後の処置を
頼んでください。

地震の場合



ガス栓、器具栓を閉め
(火を全て消し)、二次災害防止のため、
揺れが大きい場合はおさまった後で
容器バルブも閉めてください。

台風・洪水の恐れがある場合



容器バルブを閉め、容器が
倒れたり流されたりしないか、
しっかりと固定されているかを
確かめてください。

※家から離れる場合は電気のブレーカーも落としてください。



必ずLPガス販売店または保安機関に連絡をし、
再びガスを使用する際は、点検を受けてからお使いください。

※連絡の際は氏名・住所・状況などをお知らせください。